

社会学部 人間福祉学科

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

人間福祉学科は、人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察することによって、現実的な目標に取り組み、共生社会のコミュニティづくりのために、地域住民等と連携しながら、地域の潜在化したニーズを発見し、分野横断的な支援体制の構築をめざす人物を育成することを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の4点とします。

1) コミュニケーション能力

他者の話を傾聴し説明もわかりやすく、状況に合わせた非言語的表現力も適切で、円滑なコミュニケーションをとることができる。

2) エコロジカル思考

人とその人を取り巻く家族・知人などの人、組織、社会などの環境に働きかけ、必要な課題を見出し、課題克服のために主体的に取り組むことができる。

3) 問題解決能力

様々な場面で諸課題を発見し、情報を収集、分析し明確化した上で、解決に向けて行動できる。

4) イノベーション力

明確なビジョンを持ち、課題から現状の枠組みと新しい枠組みを考察し、現実的な目標を設定できる。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

人間福祉学科では、利他の精神に基づいて、人とのつながりを大切にしながら人と社会の在り方を多角的に考察する力を身につけ、社会福祉と健康スポーツの分野を通じて、人々の生活の質を向上させる専門知識と実践力を身につけ、その専門知識・技術を活用することによって社会に貢献でき、現状に安住せず堅実かつ柔軟な思考で不断の刷新を図ることができる能力を修得します。理念や理論だけでなく実践を重視し、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する能力修得など実際に活用ができるカリキュラムを編成し、現場での学修およびそれに資する教育の機会を核として、講義と演習がそれを支える教育形態とします。

【社会福祉専攻】

社会福祉学の専門知識と技術を修得するために社会福祉領域の専門科目を修得し、演習・実習科目では講義科目との関連性を持たせ、ソーシャルワークの展開方法について学び、ソーシャルワーク業務の実際について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術を体得します。また、ソーシャルワーカーに求められる資質、技能、倫理、自己覚知等を深め、総合的に対応できる能力を修得し、実践と理論の一体的な理解を深めます。

「福祉マネジメントコース」

地域福祉、医療、行政、企業など幅広い現場で活躍できる専門性を養成し、安心して暮らせる地域コミュニティの形成をめざした、理論と実践の理解を深めます。「ボランティア論」では、多様な社会におけるボランティアの意義について学習し、「福祉・医療インターンシップ」では、社会福祉や医療の現場での実務研修を実施し実践力を獲得します。

「こども家庭福祉コース」

すべてのこどもと家庭が、安心して暮らせる社会の実現をめざした支援方法を学修します。「児童発達心理学」では、乳幼児期から児童期における子どもの言語、認知、情動、社会性などの発達について学びます。また、「スクールソーシャルワーク論」では、児童・生徒に発生する学校における問題に対して、問題を解消するための知識を修得し技術を身につけます。

【健康スポーツ専攻】

スポーツを単なる競技としてではなく、その価値を多角的にとらえ、インターンシップなど実際の現場を体験することによって、教育・福祉・行政・経済などさまざまな領域に応用できる知識と技術、実践力を身につけます。また、身体だけでなく心理学や栄養学についても学び、総合的に人を支える力を学修します。さらに、指導法、コーチング、メンタルトレーニングを通して、コミュニケーション能力や対人力を養います。

「スポーツマネジメントコース」

スポーツを通して人々の心身の健康と地域の活性化に貢献できるよう、スポーツ関連企業や市民の健康づくりにかかわる企業・機関でのインターンシップを軸に、スポーツを通じた健康づくりを組織的に展開する手法を身につけます。さらに、スポーツイベントの企画・運営に必要なプロジェクト管理力やマネジメントスキルを修得し、地域や社会に貢献できる能力を獲得します。

「スポーツウェルネスコース」

医療、福祉、スポーツの多面的なアプローチによる人々の健康維持・促進について学修し、多様な人々と関わり、その人らしい暮らしを実現する力を養います。スポーツを通じて心と体の健康を支え、地域のウェルネスを推進し、心身の健康だけでなく、その人の価値観や生きがいなどを含めた多元的な健康観について理解します。

(2) 教育方法

- 1) 講義・演習・実習等の授業形態を組み合わせた授業を実施し、いずれにおいてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。
- 2) 演習においては、社会活動やフィールドワークを通して、課題解決を目的とするアクティブ・ラーニングを1年次から3年次まで段階的に取り入れる。
- 3) 実習やインターンシップにおいては、実践現場において専門知識と専門技術の統合を1年次から3年次まで段階的に図る。
- 4) 実習においては、1年次から3年次まで実習報告会に参加し、学生の実習経験に応じた相互教育の機会を取り入れる。
- 5) 講義と演習を組み合わせた資格取得支援を目的とする授業を実施し、社会福祉専門職に求められる専門知識の定着を図る。
- 6) 3年次から4年次の少人数のゼミにおいては、個別的な関心に沿って主体的な学修を促す。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価する。
- 2) ディプロマ・ポリシーを目標とする学生自身の自己評価を1年次の評価から実施する。
- 3) 講義においては、小テストや期末テストを実施して、到達目標の達成度を評価する。
- 4) 演習・実習・インターンシップにおいては、ルーブリックを用いて、学生自身が学修成果のリフレクションを行う。
- 5) 演習・実習・インターンシップ等においては、学生同士の相互評価やフィードバックを活用して評価する。
- 6) 実習においては、実習指導者による評価を部分的に活用し、学生が修得した能力について複数の教員によって評価を行う。
- 7) 学修ポートフォリオを用いて、1年次から4年次まで縦断的な評価を行う。
- 8) 1年次と3年次にPROGテストを実施し、コンピテンシーの評価を行う。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

人間福祉学科は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

- 1) 他人の話に耳を傾けることができること。
〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 少子高齢化など社会的問題に関心を持っていること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

3) 専門分野の知識や技術を高めようとする目標を持っていること。

〔求める要素：知識・技能、思考力〕

4) 違う価値観の人と協働して、物事に取り組むことができること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性、思考力・判断力、表現力〕

5) ボランティア、スポーツなどの活動に関わり実践から学ぼうとする意欲があること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕